





乙第16号証の4

平成31年1月25日(金)

メ モ	担当者 
会社名・役職 大川原化工機株式会社 顧問 氏 名 相嶋 静夫 生 年 月 日 	
<p>1 取調べ日時・場所 1月25日  </p> <p>2 取調べ内容 9:07~11:38 13:14~15:40 ※ 供述調書3本作成</p> <p>[メール(CC)から自身が消えた理由は?] 私が怒ったから、外したって訳では無いだろうと思うけど(笑いながら)その理由は島田に聞いてくれたら分かると思う。島田がメインでやってるから。 (法規制については)一般的な殺菌という言葉が入ると、引っかかっちゃうよね、とそれは誰でも思うと思う。社長も。 もちろん生物兵器を作る機械じゃ無いよと、汎用として作ってるモノだから。死ぬ気なら話は違うけど。それはデンマーク以前の問題で、その時期に殺菌って言葉が入るって頃に、社長も向こうには殺菌って言葉を除いてほしいという連絡はしていると思う。島田もね。</p> <p>[社員に対して説明はしたか?] 条件が滅菌という意味では、滅菌が出来る装置では無いからその説明はした。そのままの状態でも滅菌したって装置は実績も無いし。圧力容器の問題が難しいから。海外でもそれぞれの国で認可をとらないといけないから、難しいだろうと。 条件付きだが一般的な意味での殺菌では、該当する可能性があるから、という説明はした。 滅菌に関しては該当しないが、当然それに対応したモノを作れば該当する。</p> <p>[会議のような場であったか?] まあよくは覚えていないけど、当然何かあればそのときの判断は、私の考</p>	

えとして打ち出す。議事録があればいいですけど。

島田の場合は担当として報告をするし、私がそれに対して疑問があってもその場での議論は意味が無いので、その次の会議で島田が経過報告としてする、という形はあり得るかと思う。

〔「こういう機械が該当になる」と、島田が話したことはあるか？〕

該当になる云々の話はしていないと思う。

生物化学兵器に関する話し合いをしているよという話はあったとは思う。

【法規制について】

社長は■■■さんに確認して、日本でいう乾熱滅菌についても話を聞いているはず。薬局方には乾熱滅菌という言葉はあったけど、それが規制の「滅菌」に当たるのかは社長も相談していたと思う。

滅菌には1ランク落ちるけれど、「殺菌」とは「超高度な殺菌」であるという風に理解していたんだと思う。デンマークから来た内容を、滅菌と殺菌に置き換えると、そういうことだと言っていたようだね。

ロに関しては、ノズルを置き換えたからってそれで製品をつくれるかっていうのは、難しい。出来ないとは言わないけれど、難しい。

ハは「殺菌」という言葉の話です。だから規制の窓口が困るよと。それを入れるのであれば、明確な定義を入れなくちゃいけないんじゃないのと、提案したわけですよ。システックの■■■さんだっけか、この人もムツとしていたから私も主張したわけですよ。

その辺はなんとかしましょう、ということで、結果的には■■■さんが収めたわけですよ、要するに定義については。その中で感情的なところもあったかと思う。お互いにね。私だけ怒っても論争にはなり得ないからね。

■■■さんだっけ、この人が自分が先輩だからと上から目線で来たから私もムツとしたんです。

私は言葉の置き換えに対して反応しているだけでした。島田も社長も、それは言葉を置き換えただけで、意味はこっち（乾燥滅菌）のことを指すんだって思っていた可能性は高い。だから周りは、今更蒸し返して・・・と思っていたのかも知れない。

でも私は行政官庁として、言葉には定義づけするもんだと思っている。法律ってのはそうでないといけない、一般論ではいけない。

会社は「乾燥滅菌」が「殺菌」のレベルであると判断して、非該当として輸出していたんだと、今現在私は考えている。

併せて経産省が何の運用通達もなく、規制をしているということが明らかになったというわけだ。つまり我々は悪意があってやっていた（申請していなかった）のではなく、AG に関する打ち合わせの経緯からみれば、「殺菌」が「乾燥滅菌」「高度な殺菌」であると理解してきていて、それに対する、経産省からの否定もされずにきているということがわかる。

パブリックコメントのあと、社長と島田で経産省に確認に行っているはず。そんなに私は社長と仲良くはないし、一緒に行動はしない。

要は二人とも考えがほぼ同じだから、どちらが行っても結果が同じと思っているから、社長が行けば私は行かなくてもいいという感覚はずっとあった。

そうした事情があったから、社長と一緒にどこかに行って相談するってことはしていない。知識量も社長はちゃんとあるから。

【出張等の旅費請求について】

[REDACTED]

【その他】

最後に言うなら、もっと確認しておけばよかったと思う。

最終的には一番危惧していたことになった。メーカーも窓口も困るよと、まきこまれた警察にも申し訳ない。ひいては東京都民に対して、一番申し訳ない。今は反省している。確認しておけばよかったって。

せめて窓口の方では何らかの定義があるんだろうと、そう思って、確認しなさいよと言った。社長がちゃんとしておけばよかった。高度殺菌て言葉を使ってみたいだが。まさしくデンマークから提案された内容で、社長は是認していたんだろうと思う。

経産省もまさか、輸出してはいけない、といきなり言い出すとは思っていない。もしそうなら経産省なんて日本に要らない。今となつては悪意があったのではと思ってしまう。

幅広い意味での「殺菌」だとみんな該当してしまうから、申請しなくちゃならない。そうすると基準がないから窓口が困るでしょうから、殺菌の定義をちゃんと付けましょうということだ。

当時そんなに危機感があったなら、弁護士なり代議士を使って経産省相手にやり合っていたと思う。確認しておくべきだったという反省は、今となつてはあります。

形式上、ものを決定するのは社長ですから。

【身上に併せて】

粉体工学学会の中の

製剤等粒子設計部会

が、医薬関係の会社や薬学部の先生方が入っている団体。

産業界としては日本粉体技術協会の中の

粒子加工分科会

が、製薬機械、製剤機械、材料関係の企業が入っている団体で、大川原化工機株式会社は、粉体技術協会の正会員です。

この製剤等粒子設計部会と粒子加工分科会とは、産学共同ということで一緒に活動しており、大川原正明社長は、1990年頃から私が会社を退職した頃もまだ、その粒子加工分科会の代表幹事を務めていたので、ずっと薬学関係の先生方とおつきあいがあった。

私はだいたい社長と一緒に学会に出席し、会計関係や事務方をやっていたので私もそうした薬学関係の先生方とも、お互いに相談をしたりするといったようなお付き合いがあった。

その際に「殺菌」関係の話や、「滅菌」に関しては日本の薬事法だとか、それに関連する規定や GMP 基準、アメリカの基準についても話していたので、大川原正明社長も私も、そういった関連の話は理解している。

規制関係の話が出ていた頃には私はもう学会には出席していなかったが、大川原正明社長は学会にも出席していましたので、もしかしたら「滅菌」や「殺菌」に関して、先生方に相談していたのではないかと思う。